

北極圏国における入国制限措置の現況

国立極地研究所
国際北極環境研究センター作成

更新日：2020年6月17日 赤字：更新箇所

国・地域および施設	入国制限および入国者に対する検疫	発出日 または 更新日	詳細
国			
ノルウェー	感染症危険レベル3（渡航中止勧告） 。外国人旅行者のノルウェー入国禁止措置を8月20日まで適用。ノルウェーへの入国が認められている外国人旅行者はノルウェーの滞在許可を持っている者や欧州経済領域（EEA）市民の一部となる。入国者に対する自宅隔離は8月20日まで適用。ノルウェー入国後は10日間の隔離を求められる。6月15日から、北欧諸国（フィンランド、アイスランド、グリーンランド、フェロー諸島、デンマークの全ての地域、及びスウェーデンのゴットランド島）との間の観光客往来を再開する。7月20日までに、その他のヨーロッパ諸国に対する渡航勧告及び入国後の自主隔離措置の変更について検討する。	6月12日	https://www.no.emb-japan.go.jp/files/100064263.pdf
アイスランド	感染症危険レベル3（渡航中止勧告） 。6月15日以降、EEA（欧州経済領域）・EFTA（欧州自由貿易連合）域内（いずれもノルウェーを含む）からの入国者は、14日間の自主隔離または感染検査のいずれかを選択することで入国が許可される。EEA・EFTA域外からの入国者に関しては7月1日以降の入国制限緩和を検討。ただしEEA・EFTA域外からの学生および業務目的の専門家の入国は、例外措置として6月15日から入国が許可される。	6月16日	https://www.is.emb-japan.go.jp/itpr_ja/20200615.html
スウェーデン	感染症危険レベル3（渡航中止勧告） 。EU加盟国等以外からスウェーデンへの不要不急な入国を一時的に禁止する措置を6月30日まで延長。ただし、スウェーデン国籍者や滞在許可保持者等は入国可能とする。	6月12日	https://www.se.emb-japan.go.jp/files/100064519.pdf
フィンランド	感染症危険レベル3（渡航中止勧告） 。フィンランド国民・在住者を除き、陸海空路による旅客の入国を制限。入国後は14日間検疫と同様の状態で自宅等での待機を要請。不要不急の出国は自粛を要請。出入国制限は必要不可欠な用務のある場合等一部緩和されるが、それ以外の場合は7月14日まで継続。国外から入国する者（国籍を問わず）に対する14日間の自宅での自主待機は引き続き要請。ノルウェー、デンマーク、アイスランド、エストニア、ラトビア及びリトアニアについては、6月15日よりフィンランドへの入国制限が解除され、これらの国からフィンランド入国時における14日間の検疫相当の自主待機は不要。	6月15日	https://www.dk.emb-japan.go.jp/files/100064574.pdf
デンマーク	感染症危険レベル3（渡航中止勧告） 。6月15日から、EU及びシェンゲン協定加盟国、ならびに英国に定住所を持つ者は、交際相手、婚約者、祖父母、孫等を訪問するためのデンマーク入国が可能となり、ビジネス出張や就職の面接等を行うことができる。デンマークに入国後は原則全員14日間の自主隔離を要請。例外的に、国外からのビジネス出張者（日本からの出張者含む）やドイツ、アイスランド、ノルウェーから帰国した場合（注：6月15日から。75万人以上の都市に滞在した者を除く）については、14日間の自主隔離は不要。空港での乗継ぎは可能であるが、観光目的で第三国に渡航する際にデンマークを経由することは認められない。6月2日からオーフス空港を再開。6月15日からデンマーク国内の全空港で全ての乗客、乗員、空港職員に対し、空港到着から機内、目的地の空港を去るまでの全行程でマスクの着用が義務付けられる見通し。スカンジナビア航空（SAS）は、手作りマスクやスカーフなどの代用品を認めない。利用する航空会社のホームページを確認のこと。	6月16日	https://www.dk.emb-japan.go.jp/itpr_ja/taizai-covid19.html#denmarku_2
ロシア	感染症危険レベル3（渡航中止勧告） 。4月29日、ロシア首相府は外国人の入国制限措置を、5月1日以降も期限を定めず延長すると発表。 ロシア連邦サハ共和国においては、他地域から訪問する場合、2週間の隔離が必要（6/11 現地関係者からの情報）。	5月6日	https://www.ru.emb-japan.go.jp/itpr_ja/ryoiji20200506.html

カナダ	感染症危険レベル3（渡航中止勧告）。カナダ国籍者及び永住者の外国籍の近親者について、新型コロナウイルスの感染、症状を示しておらず少なくとも15日間滞在する場合、カナダへの入国禁止から免除される。ただし、入国した後14日間の隔離措置は必要。カナダ入国者が信頼できる自己隔離計画を示せない場合にはホテル等の指定施設で自己隔離を行うことを義務付ける。カナダの空港において出発/到着する全てのフライトの搭乗者は、空港のスクリーニング・チェックポイント等において非医療用マスクの着用を義務付ける。また、搭乗手続きにおいて非医療用マスクを所持していることを示す必要があり、示すことができない場合、搭乗は許可されない。6月30日までに、すべての航空会社は国際線の出発地から発つ前に、カナダに渡航する全ての搭乗者の体温検査を導入する。	6月12日	https://www.ca.emb-japan.go.jp/itpr_ja/Covid19_20200330.html
米国	感染症危険レベル3（渡航中止勧告）。6月16日現在、米国疾病予防管理センター(CDC)は日本の感染症危険情報度合いをレベル3(渡航中止勧告)とし、日本から米国へ渡航する方は入国から14日間にわたり、ホテル等の宿泊施設や自宅等にて待機を命じる。6月15日、デルタ航空などを含むアメリカの主要航空会社は全ての乗客に対し、マスクまたはフェイスカバーの着用を求める取り組みを強化することを発表。各社は乗客と乗務員に対してマスク着用を求めるルールを厳格化し、指示に従わない場合は搭乗を拒否する。	6月16日	https://esta-center.com/news/detail/990100.html
地域			
ノルウェー領 スバルバル諸島	6月1日から、ノルウェー国内からスバルバル諸島へのレジャー旅行が許可される。6月12日に最大250人までが乗船するフェリーでクルーズを行うことが許可された。	6月12日	https://www.no.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00046.html
グリーンランド	6月15日からグリーンランド発着の商業フライトを再開。グリーンランドへ渡航する際は渡航前5日以内に検査を受け陰性であること、グリーンランド到着後5日間の自宅待機の後、再検査を受けることが必要。また、SUMUT フォーム（入管審査書類）の提出が必要。	6月3日	https://www.dk.emb-japan.go.jp/files/100061905.pdf
米国アラスカ州	6月6日以降、州外からアラスカに到着する全ての人は、以下を除いて到着後14日間の自主隔離が必要。 ・旅行前72時間以内または到着時におこなったPCR検査の結果が陰性 ・アラスカ州居住者が5日以内の旅行から戻る場合 ・重要なインフラ業務に関わる出張 州外および海外からの旅行者へ向け、規制に関するホームページを開設した。	6月3日	https://covid19.alaska.gov/travelers/
共同利用施設			
ニーオルスン基地	6/1以降、全ての旅行者がノルウェー本国からニーオルスンを含むスバルバル諸島へ、隔離されることなく渡航できる。ただし、海外から渡航する場合、スバルバル諸島へ入る前に、ノルウェー国内で10日間の隔離が必要。	6月5日	https://www.researchinsvalbard.no/
スバルバル大学（UNIS） オフィス	4月27日から学生とスタッフに向け閉鎖していた大学を段階的に再開。2020年の夏季、秋季に予定されていたコースは中止。6月16日現在、一部のフィールドワークを再開している。	4月7日 4月29日 6月16日	https://www.unis.no/news/

共同研究提携施設			
アラスカ大学フェアバンクス校 国際北極圏研究センター (IARC)	フェアバンクス校施設の一般利用はできない。訪問者は、承認された目的でのみ学内への立入りが可能。	6月1日	https://sites.google.com/alaska.edu/coronavirus/uaf/uaf-status
チェコ・スバボーダ基地 (ロングイヤービン)	2020年の施設運用は限定的となる。Payer Houseは6月から制限なしに運用する。また、観測船Clioneは6月末から運用を開始する。ただし、Nostoc field stationは閉鎖する可能性がある。	4月30日	https://www.prf.jcu.cz/en/cars/news/season-2020-will-be-limited-due-to-the-covid19.html
グリーンランド天然資源研究所 (GINR) 施設	施設の使用制限に関する情報は公開されていない。	—	https://natur.gl/?lang=en
カナダ極北研究ステーション (CHARS) 基地	CHARSキャンパスへの全ての訪問予定をキャンセルとする。また、公共スペースの使用を停止する。	3月13日	https://www.canada.ca/en/polar-knowledge/news/2020/03/polar-knowledge-canada-taking-measures-to-help-reduce-the-risk-of-the-coronavirus-in-the-cambridge-bay-area.html
ロシア スパスカヤパッド観測拠点	施設の使用制限に関する情報は公開されていない。	—	—
ロシア ケープ・バラノバ基地	施設の使用制限に関する情報は公開されていない。	—	—
カナダ ラバル大学 北方研究センター (CEN)	6月30日まで研究ステーションの予約はできない。	—	http://www.cen.ulaval.ca/en/index.php

「感染症危険情報」のカテゴリー及び発出の目安

https://www.anzen.mofa.go.jp/masters/kansen_risk.html

カテゴリー	発出の目安
レベル1：十分注意してください。	特定の感染症に対し、国際保健規則（IHR）第49条によりWHOの緊急委員会が開催され、同委員会の結果から、渡航に危険が伴うと認められる場合等。
レベル2：不要不急の渡航は止めてください。	特定の感染症に対し、IHR第49条によりWHOの緊急委員会が開催され、同委員会の結果から、同第12条により「国際的に懸念される公衆の保健上の緊急事態（PHEIC）」としてWHO事務局長が認定する場合等。
レベル3：渡航は止めてください。（渡航中止勧告）	特定の感染症に対し、IHR第49条に規定する緊急委員会において、第12条に規定する「国際的に懸念される公衆の保健上の緊急事態（PHEIC）」が発出され、同第18条による勧告等においてWHOが感染拡大防止のために貿易・渡航制限を認める場合等。
レベル4：退避してください。渡航は止めてください。（退避勧告）	特定の感染症に対し、上記のレベル3に定めるWHOが感染拡大防止のために貿易・渡航制限を認める場合であって、現地の医療体制の脆弱性が明白である場合等。